

趣旨説明

田村 圭子

日本学術会議連携会員

新潟大学危機管理センター 教授

21世紀前半に発生が确实視される国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方

主催：日本学術会議土木工学・建築委員会IRDR分科会

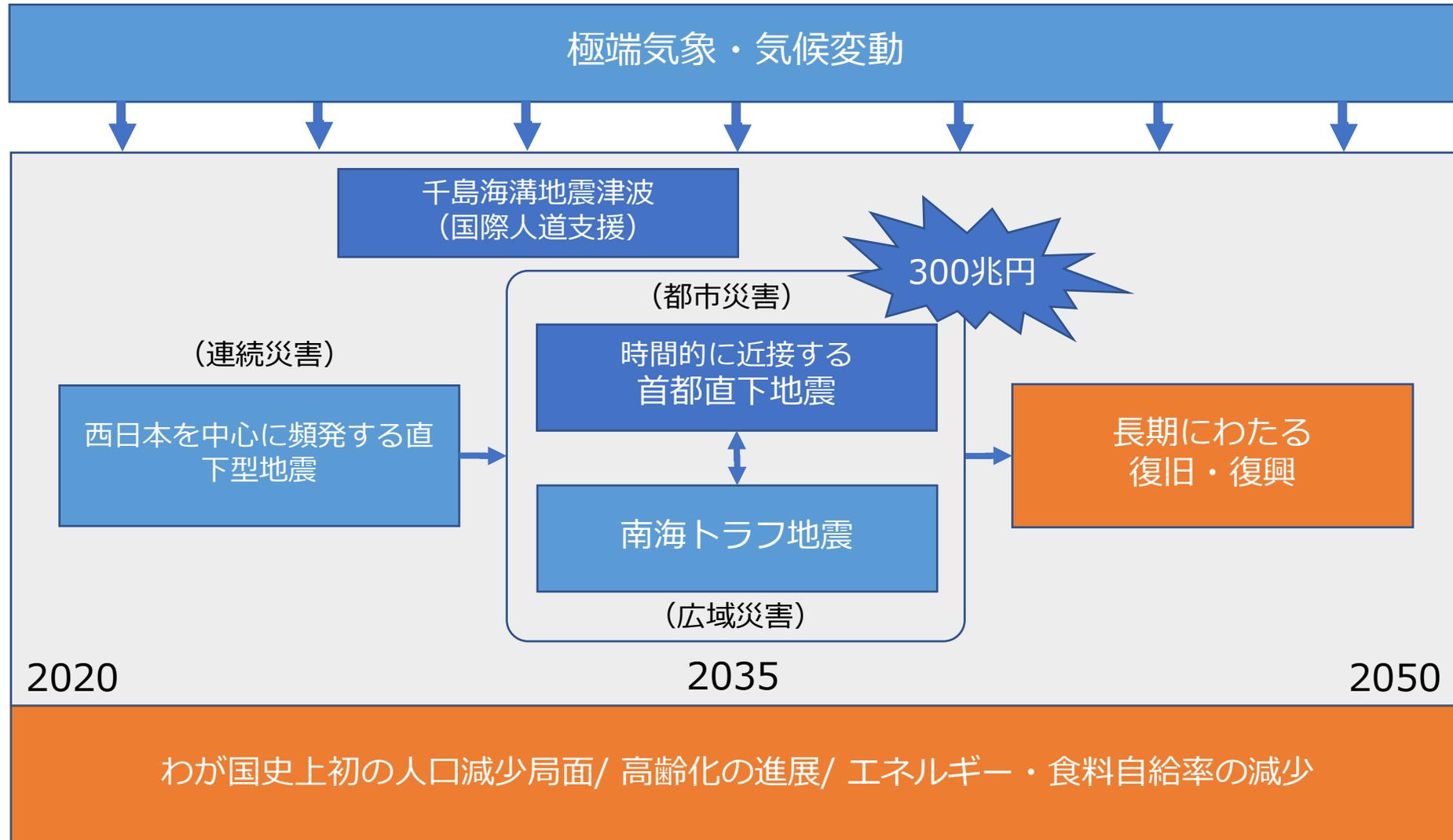
共催：防災減災連携研究ハブ(JHoP)

ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター

南海トラフ地震、首都直下地震など**21世紀前半に确实視される超巨大災害の発生が切迫**している。また、全国的に**甚大な水害の発生**の危険性が高まっており、経済・社会活動が集中する首都圏では深刻である。

こうした**国難級リスクを乗り越える**ため、残された時間の中で何を準備して、発災後はどのように対応すべきか。学術、行政、民間、メディアの見地から、**国難災害を乗り越える俯瞰的な戦略と実行可能な具体的方策**について討議する。

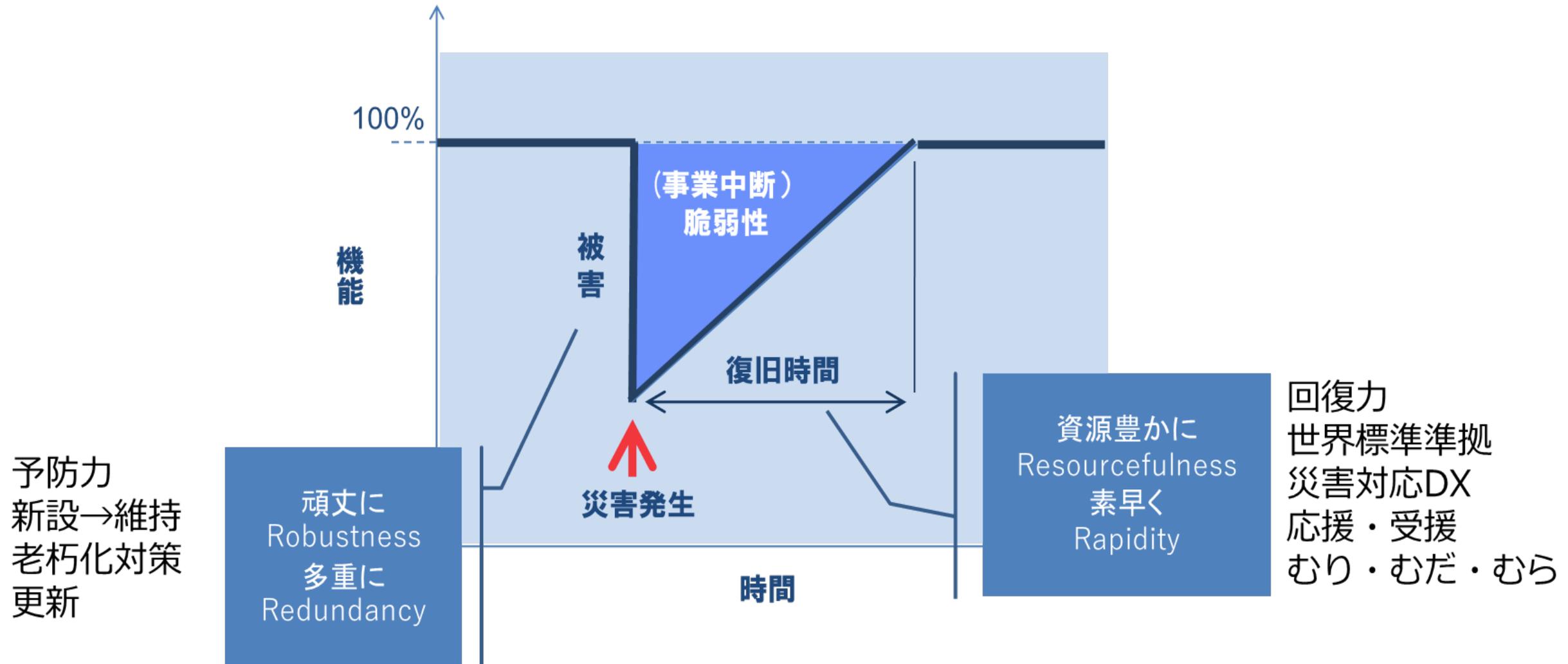
21世紀前半の国難災害



国難災害：従来とは比較にならない規模の被害

地震	南海トラフ		首都直下		東日本 大震災	阪神淡路 大震災
	2012 (L2)	2003 (L1)	2013	2005	2011	1995
マグニチュード	M9.0	M 8.7	M7.3	M 7.3	M 9.0	M 7.3
死者/行方不明者	80,000 - 320,000	24,000	5,000 - 22,500	11,000	19,294	6,434
負傷者	257,000 - 623,000	300,000	90,000 - 120,000	240,000	6,100	44,000
建物倒壊	627,000 - 1,346,000	450,000		200,000	126,500	105,000
建物焼失	50,000 - 750,000	90,000	38,000 - 412,000	650,000	---	7,400
避難者（最大）	----	6,000,000	7,200,000	7,500,000	480,000	320,000
直接被害額（兆円）	220	81	95	112	17	10

レジリエンス：事業継続能力の向上



【基調講演】 「国難災害の課題の全体像」

河田 恵昭 (阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター センター長)

【国難災害を乗り越える 3 つのヒント】

1. 津波救命艇シェルターを活用した1次避難

水野 茂 (株式会社ミズノマリン 代表取締役)

2. 「伝えること」でできること～残された課題解決のために～

大牟田 智佐子 (毎日放送 報道情報局 部次長)

3. 大阪北部地震の経験から～あらゆる主体に基づく防災のあり方～

多田 明世 (元大阪府茨木市 危機管理課長、よんなな防災会女子部 管理者)

【総合討論】

「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」

司会:川崎 昭如 (日本学術会議連携会員、東京大学教授、未来ビジョン研究センター)

【閉会挨拶】

林 春男 (国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長、日本学術会議連携会員)